

■ グループ紹介

東光精機株式会社

1. 沿革

当社は大正6年、(株)芦田工業所として、電力量計の輸入販売と量水器の製造販売から発足、量水器の製作を本格化するなどの長い歴史を持っている。その後、昭和20年に社名を現在の「東光精機株式会社」とした。電力事業再編成に伴い、関西電力の関係会社となった。

その後、各方面のご愛顧を得て、電力量計量水計とも順調に発展し、今日の計測器事業部・量水器事業部となっている。また昭和36年には制御機器事業部(現)が発足し、各種配電盤の製造を開始した。さらに昭和41年には計装事業部(現)を新設し、火力原子力発電所の工事・保守の事業を開始している。

2. 会社概要

1. 資本金 5億1955万円
2. 主要株主 関西電力株式会社
関電産業株式会社
株式会社日立製作所
3. 社員 641名
4. 売上高 196億円(平成5年度)
5. 事業所 本社(大阪府摂津市千里丘3-14-40)
5事業部、7部・室
支社 3(北海道・東京・九州)
営業所 12
工場 5(本社、佐用ほか)

3. 事業内容

電力量計・量水器の製造販売に端を発した当社では、現在もこれらが計測器事業部と量水器事業部の主力製品群となっている。しかし、社会産業状況の変遷に伴い、ロードサーベイ「電気ご使用状況調査」、時間帯別複合電力量計、デマンド複合計器、配電自動化用機器、集中自動検針型量水計などに発展してきている。制御機器事業部では配電用変電所の制御盤・受配電キュービクルの製造の他、制御所・変電所の運転員訓練用シミュレータ、CATV関連機器の製作等を展開している。

計装事業部は、火力原子力発電所の計測制御機器の

保守の他、各種制御盤の製作、タービン振動解析装置製作などを行っている。また日本スルザー社と提携して高温高圧の大型弁の制御装置の組立を行っている。

特機事業部は、煙風道のエキスパンジョン・ジョイントや空調機器などの納入を行っている。

4. 研究開発の現状

当社は、新製品開発が将来の事業展開を左右するとの見地から、売上高の3%強を研究関連に投入し、新製品比率も高水準にある。広範囲にわたる分野の研究体制としては、技術部が全体を統括するが、実際の研究開発は各事業部の研究開発部門が担当して行っている。

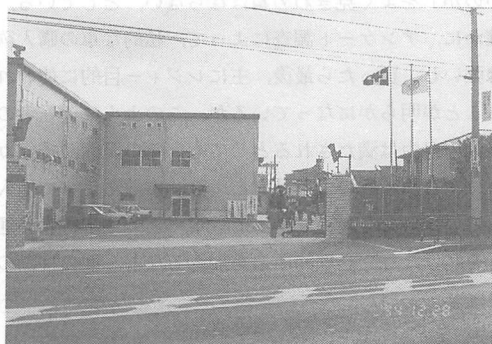
近年の研究開発は、電子化の波の中で捉えることが出来るが、コンピュータライズへの動きがますます強まっている。そして研究開発のほとんどの場面に何らかし計算機が関与している状況にある。画像処理・大量情報記録とその利用、LANを使った情報流通による利用高度化などが顕著に見られる。

一方、計算機化され著しく高度化した設備機器の運転保守面で、携帯型計算機で人間の立場を強化しようとする動きも見られる。

先般、創立75周年を迎えて、新館も完成し、関係社員一同は自由な雰囲気、各種の研究に打込んでいる。

所在地：〒566 摂津市千里丘3-14

(文責：計装事業部副事業部長 未定泰彦)



正門付近景